

農業委員会 活動日誌

農業委員会は、地域の農政を推進するため、様々な取り組みを実施しています。ここでは、これまでの農業委員会活動について、お知らせいたします。

農業委員会研修会開催

米の所得補償 モデル事業について学ぶ

1月29日、農業委員会総会後に、農業委員会研修会を開催しました。

研修会では平成22年度モデル事業として実施される、米の所得補償モデル事業、水田活用自給力向上事業等助成事業の概要について理解を深めました。

現在、日々諸政策が変化している中、農業委員会も情報の収集と提供を基本に、農業者の農業経営の安定につなげていくための取り組みを強化してまいります。

当日は、秋田県平鹿地域振興局より講師を招いて、事業について説明を受け、その後、農業委員との質疑応答がありました。



こんな時は、農業委員にお気軽にご相談ください！

農業委員は農家の目線に立って、次の相談を行っています。

相談内容

- 経営規模拡大
- 農地を売りたい
- 農地の貸し借り
- 農地転用
- 農業者年金
- 農地と税金
- 相続と農地

農業委員は、農業者の代表として、また地域の世話役として皆さんからのご意見・ご要望・ご質問に応じてまいります。また、相談内容については、秘密を守りますので気軽にご相談ください。

食育を考える

3月8日、「第4回 浅舞小学校 回横手食育見聞録作文・図画コンクール」の表彰式が行われました。

このコンクールは、毎年、市内の小学5年生を対象に市・教育委員会と協力し、農業体験や農作物に対する思いを作文・図画にしていたいたいたるものです。作文が143件、図画が241件の応募があり、審査結果は次のとおりとなりました。

農業委員会では、「食育」の必要性と重要性を認識し、「健康で豊かな人間形成と食糧自給率の向上」に向け、このコンクール作品を広く活かしてまいります。

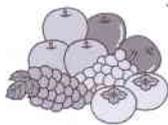
作文の部

最優秀賞

浅舞小学校 5年 西村 萌さん

優秀賞

浅舞小学校 5年 柴田 理央さん



図画の部

最優秀賞

田根森小学校 5年 永瀬 真央さん

優秀賞

朝倉小学校 5年 後藤 悠希さん

境町小学校 5年 高橋 未来さん

浅舞小学校 5年 畠山 慧瑠さん

十文字第一小学校 5年 小坂 繭子さん

十文字第一小学校 5年 佐藤 美咲さん

浅舞小学校 5年 村田 雅治さん

大森小学校 5年 鈴木 純さん

十文字第一小学校 5年 山本 勇斗さん

田根森小学校 5年 戸巻 直美さん

増田小学校 5年 千葉 歩実さん





安全な食とくらし



田根森小学校 永瀬 真央さん

図画の部 最優秀賞作品



作文の部 最優秀賞作品



浅舞小学校 西村 萌さん

おいしい野菜は 笑顔と幸せのもと

わたしの家では、ウドやパセリ、チンゲンサイなど、二十種類以上の野菜を祖父母が育てています。二人は六十才をすぎているのにクリーニング屋さんも営んでいます。二つの仕事をどちらもやる祖父母は、わたしの自慢です。

祖父母が育てている野菜二十四種類全てがとてもおいしいです。野菜のほとんどがとても甘く、シャキシャキしています。さらにトウモロコシやえだ豆、オクラやアスパラはゆで、ウドやナス、カブやキュウリはつけものにするのもっとおいしくなると祖母が話していました。こんなにおいしいものを作る事ができるのは、何度も失敗を積み重ねてきたからなのかなあと思います。わたしは、毎年楽しみにしています。

ることがあります。それは、夏のジャガイモの収穫です。クリーニング屋さんか休みの日曜日の晴れた日に、祖父母とやります。大きなものも小さなものも、みんなよく育ってくれたねと、思いながら一生懸命ほります。そして、終わつた後に、祖母が採れたてのジャガイモを使ってジャガバターを作ってくれます。がんばつた後に食べる採れたてのジャガイモの味は格別でした。こんなにおいしいものを食べられる私は、とても幸せだなあと思いました。

家で作ることができる野菜は限られているので、スーパーで買うものもあります。そのときに祖母が気をつけていることは、なるべく朝市で買うこと。それから、地産地消を心がけることだそうです。祖母は、食の安全にも気をつけてくれているんだなあと思いました。今回、食生活を見直してみても、食の安全はとても大切なんだなあと改めて思いました。そして、祖母が作っている野菜のような、食べたい人に幸せだなあと思ってもらえる野菜作りを目指す人が、もっとももっと増えることを願っています。

編集後記

各地で桜の開花予想が報道されていますが春はまだ先のように思います。

品目横断的経営安定対策から戸別所得補償制度に移行され、生産調整目標に従う農家に補償はあるものの一方では、自己責任で自由にコメを作付けして利益拡大を目指す農家がいることは、我々この仕事に携わるものにとっては、考えさせられる問題です。

農家の手取りを拡大することの目的の制度の方向がそれないように身を引き締めて取り組みたいと改めて思います。

水田活用自給力向上事業については、作物を生産した農地には補償をするものの、水田の有効活用はまだ取り組めない農地が沢山あることにも少し手厚い保護が受けられるよう見直しが必要かと思われれます。

国内の自給率を高め安心安全な食糧生産と自然環境に配慮しながら、汗水流して経費を惜しまず農業を続けることはこの先も変わりませんが、若い世代に希望の持てる農業環境を譲り渡すことが我々の使命であると桜の堅いつほみを見ながら思いました。

情報策定委員 横手地区 近江谷 久雄

農政の動きをキャッチ!

全国農業新聞

- ◆発行日：毎週金曜日
- ◆購読料：1カ月600円
- ◆申込み先：地域同産業振興課又は農業委員会事務局まで!